

令和5年度 シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅰ（2年）	必修・選択	単位数	2
教科書・副教材等	新 高校の数学Ⅰ（数研出版）					
学習の到達目標	図形と計量、集合と命題、データの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現		c. 主体的に取り組む態度		
	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	物事を多面的にみる力、目的に応じて適切に変形する力、図、表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択する判断力、問題を解決する力、考察した過程や結果を論理的に考察し表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価の方法	上記3つの観点について、授業への出席状況、授業中の学習態度、課題への取組状況、定期考査、ルーブリック自己評価表などから、総合的に評価を行う。					
	単元		主な学習内容			
前期	3章 図形と計量 1節 三角比 ・直角三角形 ・三角比 ・三角比の利用 ・三角比の相互関係 ・鈍角の三角比 2節 三角形への応用 ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角形の面積		・相似な三角形や三平方の定理など、三角形に関する性質や定理を身に付け、三角比に円滑に取り組めるようにする。 ・サイン、コサイン、タンジェントの考え方及びその求め方を理解し、三角比が測量などに応用できることを理解する。 ・三角比に関する様々な性質や公式及び定理を学び、性質を利用した考え方や公式の計算ができるようにする。			
後期	4章 集合と命題 ・集合 ・命題と集合 ・必要条件と十分条件 5章 データの分析 ・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばり ・データの相関 ・仮説検定の考え方		・数学における集合を理解し、命題の真偽を適切に判定し、それらを用いた証明を正しい筋道で行えるようにする。 ・統計の基本的な考えを理解するとともに、ヒストグラムや代表値などを用いてデータを整理・分析する。 ・四分位偏差や標準偏差など、散らばりぐあいを表す値の必要性和計算方法を理解し、これらを用いて相関関係を理解する。			